2016 年 11 月吉日

ボジョレー速報 2016 年

いよいよ 2016 年もクライマックス！ついに収穫と仕込みが始まった！！

2016 年は、前半に霜の被害、2 回の雹害、そして長雨によるミルデューの被害とかつてない厳しい試練が訪れ、前半は何度も不安がよぎった年だった。しかし後半は太陽に恵まれ、直前の 9 月の天候も良好で、3 生産者とも昨年と比べて 20 日間ほど遅い収穫ではあったが、ブドウのクオリティは大きく挽回し、期待以上の収穫ができたようだ。今回は収穫と仕込みのレポートをお届けします♪

☆ カリーム・ヴィオネ

収穫は予定通り 9 月 17 日にスタートした！1.5 ヘクタールのランシエの畑のブドウの収量は、結局 20hl にも届かなかった…。例年と比べて約 70%減…。この量だと今年のヌーヴォーは日本と一部パリだけでしか味わえない貴重な年になりそうだ。今年は、ブドウの成熟がバラバラで、ひとつのブドウ樹に潜在アルコール度数が 14 度を超える完熟しきったブドウと 11 度も行かないブドウが同時になっているものが多かったが、酸のバランスを考えて完熟しきっていないブドウも全て収穫した。現在、発酵はほぼ終わり、果実味を生かすためにマセラシオンは 10 日間と短めに抑えた。出来上がるワインは、2015 年がボリューム豊かなヌーヴォーだったのに対し、2016 年はまさにヌーヴォーらしい酸と果実味が軽快な、楽しいお祭りワインに仕上がるだろう！

カリームの収穫風景

発酵途中のワインの色（カリーム）

☆ ジャン・フォワヤール

収穫は予定よりも 1 日早い 9 月 19 日からスタートした！今年は雹の影響でヌーヴォーのブドウは半分に減ったが、それでも 9 月は総じて天気に恵まれたのに加え、収穫直前に適度な雨も降り、結果的に残ったブドウからは果汁をたっぷりと含んだきれいなブドウを取り込むことができた！マセラシオンの期間は 11 日間。発酵も今のところ問題なく順調に進んでいる！昨年より 20 日も間遅い収獲により、果たして出荷期限までに間に合うかという心配があったが、このペースで行けば確実に間に合わせることが出来そうだ！ワインのタイプは、果実味がジューシーでエレガントな、ミレジムで言えば 2014 年のような味わいに仕上がるだろう！

収穫されたガメイ

発酵途中のワインの色（ジャン）

☆ **フレデリック・コサール&ケヴィン・デコンブ**

収穫は 9 月 22 日にスタートした！今年は、残念ながら標高の高いマルシャン村のブドウの成熟が間に合わず、結局レーニエに隣接するボジョレー・ヴィラージュのブドウを買うことにした。ブドウ自体はクリュ・ボジョレーに近いこともあり価格も高価で、ヌーヴォーにするには上等すぎるが、今年は仕方がない…。しかしケヴィンはその分、この高品質のブドウを使って必ずや期待を裏切らないスーパー・ボジョレー・ヌーヴォーに仕上げてくるだろう！収穫は、ロゼ色の未熟なブドウを全て排除し、熟したブドウだけ選果した。今のところマセラシオン中に果房の表面から発する酢酸エチルの香りや、発酵の勢いが途中で止まるというような問題は一切なく、全てが順調だ！このまま何も問題がなければ、最終的には軽快さとチャーミングな果実味を残しつつ、旨味もしっかりと感じられるヌーヴォーに仕上がるだろう！

全房でマセラシオン中のガメイ

発酵途中のワインの色（ケヴィン）

3 人とも今のところ何の問題なく、仕込みは順調に進んでいるようだ！カリームとジャンは、ヌーヴォーらしいエレガントなワインに仕上がるだろうし、フレッド&ケヴィンはワンランク上の高価なブドウでヌーヴォーを仕込んでいるので、これもまた大いに期待できる！！あとは日本に到着してからのお楽しみ♪♪（どうか無事に！）
今年も思わず頬がゆるむような、しあわせの解禁日をお約束します☆

2016 年 9 月 29，30 日訪問レポート

2016 年 10 月吉日

ボジョレー速報 2016 年

いよいよ収穫のカウントダウンが始まった！

2016 年の前半は、霜の被害、2 回の雹の被害、そして長雨によるミルデューの被害と 3 重苦に悩まされたが、8 月以降は太陽の照り付ける猛暑が続いている。このまま晴天が続けば、遅れていたブドウの成熟もどうやら収穫までにうまく間に合いそうだ！今回は収穫直前のレポートをお届けします♪

☆ カリーム・ヴィオネ

2016 年の収穫は 9 月 17 日を予定している。当初は 9 月 24 日前後を予定していたが、8 月の天候が良かったおかげで収穫が 1 週間ほど早まりそうだ！雹の影響で 7 割近くを失ったランシエ村のブドウは、房が少ないため熟するのも早く、ヴェレゾンもほぼ終わりつつあり、今のところ残ったブドウの見た目もきれいな状態を保っている。ただ夏の晴天によって状況は大きく好転したのだが、今度は日中の気温が 40℃を超える猛暑により、一部西日の当たる側のブドウが焼けて渇き落ちたり、暑すぎてブドウの成長にブレーキがかかるところもあった。そして雨が降らないのにミルデューの勢いは衰えず、バカンス返上でボルドー液の散布対応に迫られた。晴れてもまったく気が抜けない、かつてない厳しい年ではあるが、このまま行けば良いフィナーレが迎えられそうだ！

畑を見渡すカリーム

ヴェレゾンはほぼ終了している

☆ ジャン・フォワヤール

2016 年の収穫は予定通り 9 月 20 日を予定している。8 月上旬まで続いた不安定な天候も一転し、今は夏が遅れて来たような毎日暑い日が続いている！雹にやられて半減したブドウは、房の数が少ない分成熟のスピードも速く、今までの遅れを一気に取り戻す勢いがある！しかし雹や長雨のストレスで成長のエネルギーを溜め込んだブドウの木は、ここぞとばかりに解放されたように若い葉や枝を新たに伸ばし、これがミルデューの蔓延に拍車をかけている。通常であれば 8 月にボルドー液の散布は行わないが、今年は少ないブドウを守るため 8 月の終わりまで撒く必要があった。今のところ、ブドウは一部日焼けして枯れてしまった粒を除きどれもきれいな状態を保っている！品質的には何も心配はしていないが、ただ理想を言えば、果汁を稼ぐために収穫の前に適度な雨が降ってくれることを願いたいものだ。

房の数は非常に少ない

所々に日焼けの影響がみられる

☆ **フレデリック・コサール&ケヴィン・デコンブ**

春の悪天候と標高の高い影響で成熟が大幅に遅れていたマルシャン村のブドウ。当初は、完熟が間に合わないなどの万が一のことを考えて、レー二エに隣接するボジョレー・ヴィラージュのブドウを買う準備をしていたが、夏に晴天が続いたおかげで何とかマルシャン村のブドウでギリギリ仕込めそうだ！ヴェレゾンは今現在で 8 割近くは終わっているが、当初の予定の 9 月 25 日収穫に間に合わせるためには、今の天気が続くことが必須条件だ。幸い、週間天気予報ではここ 1 週間は快晴となっている！収量的には、大部分のブドウがミロンダージュ（結実不良）だが、雹やミルデューの影響がなかった分今のところ房の数も多く、他の区画に比べるとある程度量は確保できそうだ！このまま快晴が続き、何も問題なく収穫までたどり着ければ、間違いなく去年を超えるワインが出来上がるだろう！

畑を見廻るケヴィン

ヴェレゾンは 8 割近くが終了している

2016 年の夏は幸いにも晴天に恵まれ、ブドウの成熟スピードに一気に拍車がかかったようだ！ただ、それでも去年と比べて 3 週間ペースが遅く、ヌーヴォーとしてはタイムリミットギリギリの収穫となりそうだ。「春の雹の被害がなければ、質量ともに 2015 年を超える最高のミレジムとなりえた！」と 3 人とも口をそろえるが、それでもブドウの収量が少ない分品質的には十分期待ができそうだ！さぁ、次はいよいよ収穫本番！果たして彼らはどんな素晴らしいヌーヴォーを仕上げてくるか！？次のレポートもお楽しみに！

2016 年 9 月 9 日訪問レポート

2016 年 9 月吉日

ボジョレー速報 2016 年

2016 年の前半は、ブルゴーニュ、ロワール、南仏等に遅霜や雹による大規模な被害があり、フランス全体では、春の降雨量がすでに 1 年分を超えあちらこちらで洪水の被害を耳にする不安な幕開けとなった。初夏に入ると、今度は雨の日と晴れの日が交互に続く不安定な天候によりミルデューが猛威を振るい始めるなど一難去ってまた一難…相変わらず厳しい状況が続いている。3 生産者はこの困難をどう乗り越え、どんなワインに仕上げるのか！？とにかくここからの天候の挽回を願いたい！！

☆ カリーム・ヴィオネ

6 月 24 日に雹が降った。5 月 28 日に次いで 2 度目の雹だ。1 度目とほぼ同じルートをたどった雹は再度モルゴンの南東とフルーリーに被害を与え、そのまま勢いの衰えぬままムーランナヴァンまで伸びていった。ランシエの畑も雹に当たったが、1 度目の雹の被害に比べると帯から少し外れていたため軽傷で済んだ。それでも 2 度の雹ですでに 7 割近くのブドウが失われた。残りのブドウは、房の数が少なく風通しの良いことも幸いし、今のところ病気もなく地道に成長を続け、ちょうど 8 月最初にヴェレゾンが始まった！雹により荒野と化した畑を見た当初は、あまりの無残な姿に畑に入る気すら起こらなかったが、1 ヶ月以上が過ぎた今、残った枝から再び新しい葉や枝が再生され、残ったブドウの成長を支え、正常にヴェレゾンが始まっているところを見ると、ブドウの生命力は本当にすごい！

今年の収穫は 9 月 24 日前後を考えている。最悪、ランシエのブドウでヌーヴォーが足りなければ、今のところ何も問題がないジュール・ショヴェのブドウを一部ヌーヴォーに使うこととなるだろう。

ヴェレゾンがスタートしている

カリームのヌーヴォーの畑

☆ ジャン・フォワヤール

夏に入っても今なお雨が 1 日おきに降るような不安定な天気が続いている。気温は、晴れている時は 30 度を超え、雨が降っている時は 20 度を下回るような極端な温度差があり、ミルデューがもっとも繁殖しやすい危険な状況にある。6 月 24 日、今年 2 回目の大規模な雹が降り、再度コースレットとフルーリーが大打撃を受けた…。ヌーヴォーの畑も部分的に被害があり、2 回の雹の影響で例年の半分もブドウが残っておらず、見るに耐えない状況だ。さらに、強い日差しを避けるほど多くの葉が残っていないため、7 月 16 日のように気温が 40 度近く上がった猛暑日に、ブドウの西日の当たる側が直射日光により黒く日焼けしてしまうという被害もあった。今年は、晴れたら猛暑を心配し、雨が降ると雹を心配し、降り終わるとすぐに畑に出てボルドー液を散布するような、まったく気の抜けない日々を送っている。幸い、ミルデューに関しては、ブドウが少なく風通しが良いことと、散布がうまく機能しているおかげで、今のところ問題なくうまく管理できている。収穫日については、これからの天候次第だが、とりあえず 9 月 20 日前後を予定している。

撮影した日は晴れていたのだが・・・

所々にミルデューの発生が確認できる

☆ **フレデリック・コサール&ケヴィン・デコンブ**

開花は 6 月 20 日頃から始まり約 1 週間かけて終わった。前年と比べて 3 週間遅い開花だ。幸い、新しく取得したマルシャン村の畑は雹も霜の被害もなかったため、今のところブドウは信じられないくらいきれいな状態を保っている！しかも、ミクロクリマが働いているのか、それとも適時の散布が機能したのか、他の畑と比べてミルデューの被害がほとんどない！ただ、開花期間中の天候が涼しかった影響で、約 8 割のブドウがミロンダージュ（結実不良）の状態だ。通常、ワインの品質を考えると、ミロンダージュはとても歓迎すべきことなのだが、今年のようにブドウが晩熟の年はさらに成熟が遅れる可能性があり、期間の限られているヌーヴォーにとっては喜べることではない。万が一ブドウの成熟が間に合わなかった時を考えて、レー二エに隣接するボジョレー・ヴィラージュのブドウを取得する手筈を整えているが、クリュ・ボジョレーに隣接するということもあって、ブドウが高価なのが難点…。今のところ天候は回復傾向にあり、気温が 35 度を超えるような夏も戻ってきているので、このままのペースで日照量を保ち、できれば 9 月 24 日前後にマルシャン村のブドウでヌーヴォーの収穫を迎えたいものだ。

樹の状態を確認中のケヴィン

写真では全く問題はなさそうだが・・・

2016 年のブドウの収量は、すでに 2012 年、2013 年、2014 年に次ぐ厳しい年であることは間違いなさそうだ。しかし、ワインの品質について悲観することはない！これまでも彼らは数々の厳しい年を乗り越え、最後は素晴らしいヌーヴォーを造ってきた実績がある！その経験が今年も遺憾なく発揮してくれると信じている！

次回は収穫直前レポート！この時点で、ミレジムの具体像がよりはっきりと見えてくるだろう。心から幸運を祈りたい！！

2016 年 8 月 5 日訪問レポート

2016 年 8 月吉日

ボジョレー速報 2016 年

今年もボジョレーヌーヴォーの季節がやってくる！

昨年 2015 年は、ブドウの粒が小さかったため、収量は少なかったが、病気ひとつない久々に天候に恵まれた年だった。当たり年と言うだけあって、ワインはふくよかでボリューム豊かだったが、全体的にバランスが取れていて、飲み口の良い味わいに仕上がっていた。

2016 年は、ブルゴーニュ、ロワール、南仏等に遅霜や雹による大規模な被害があり、フランス全体では、春の降雨量がすでに 1 年分を超え、あちらこちらで洪水の被害を耳にする不安要素の多いスタートとなっている。今まで数々の厳しいミレジムを乗り越えてきた彼らは、果たしてこの困難をどう乗り越えて、どんなワインに仕上げていくのだろうか！？彼らの経験値、そして天運が試される、そんなミレジムになりそうだ。

☆ カリーム・ヴィオネ

冬が暖冬でブドウの発芽が 3 週間ほど早く、最初は遅霜の被害が心配されたが、辛うじて逃れることができた。だが、極めつけは 5 月 28 日に降った雹！夜中の 3 時くらいから分厚い雷雲が帯のように連なり、モルゴンの南東からフルーリーにかけて親指ほどの雹が降った。翌日の朝早く畑をチェックしに出向いたが、畑の高低差でちょうど溝になっている道に 60 ㎝くらいの雹が融けずに積もっていた。たった 10 分ほどの短時間の間だったが、それだけかなり強烈に雹が降ったことを物語っている。ボジョレー・ヴィラージュや一部ヌーヴォーにも使うランシエの畑にたどり着くと案の定 100%壊滅。新芽が雹によって見るも無残にへし折られていた…。ランシエ以外の畑は、雹に当たっていないのでまだヌーヴォーに回すブドウはあるが、今年は全体の収量が確実に減るだろう。

雹以外では、ミルデューの心配がある。雨が降ったり止んだりの天候が続き、残念ながらミルデューの格好の繁殖条件が整っており、ボルドー液散布回数も多い。開花も始まっており、もうただただ天候が回復することを祈るばかりだ。

今年の状況について説明をするカリーム

雹の被害を受けた樹

☆ ジャン・フォイヤール

開花は 6 月 14 日頃から始まった。例年並みのペースだが、雨が多いため開花はまばらで時間がかかっている。

2016 年は、暖冬からスタートしたが、3 月から天候が一転、気温の上がらない雨がちな日が毎日のように続いている。そのため、現在はミルデュー対策のための土起こしとボルドー液の散布はノンストップだ。加えて、5 月 28 日には猛烈な勢いで雹が降り、コースレットとフルーリーに大きなダメージがあった。ヌーヴォーの畑もランシ

工にある一部の区画が壊滅的だったが、その他大部分の区画は辛うじて難を逃れることができた。

今年はすでに雹の被害で例年の 2 割ほど収量が減っている。またそれ以上に今年は病気の蔓延が心配だ。 すでにいくつかの畑でミルデューが確認されている。天気予報ではこれから天候が回復するという予報なので、それを信じたいところだ。

ヌーヴォーの畑

僅かだがミルデューが確認されている

☆ フレデリック・コサール&ケヴィン・デコンブ

2016 年は新しく 60 アールほどヌーヴォーの畑を所有した。畑は、昨年のヌーヴォーをつくった標高の高いネゴスの畑と隣接していて、現在ネゴスの畑と一緒に作業している。2016 年はとても天候が厳しく、気温の上がらない日が続いているため、ブドウの成長が去年よりも 3 週間ほど遅い…。雹の被害は、幸いヌーヴォーの畑が雷雲から外れていたので逃れることができたが、晴れ間と雨を交互に繰り不安定な天気によりミルデューの蔓延が本当に心配だ。(ちなみに、ケヴィンのモルゴンの畑は 30%～40%雹のダメージを受けてしまった)。また何よりも収穫の遅れが心配だ！訪問直後の 6 月 20 日から徐々に開花が始まったが、そこから開花から収穫までの目安が 100 日と計算すると、9 月末、10 月頭頃の収穫になってしまう。時間が勝負のヌーヴォーにとっては厳しいタイミングだ…。もし、このまま不安定な天候が続き、成長がさらに遅れるようなことがあれば、ヌーヴォーのためにモルゴンなど自社のブドウを使わなくてはならない可能性もある…。幸いこれから天候が上向きになると予報しているし、ここからの回復に期待したいところだ！

今年の畑の様子を説明するケヴィン

ヌーヴォーの区画

3 人の話を聞くと、2016 年は雹の被害、長雨とかなり大変な状況だ…。だが近年も決して楽だったわけではなく、今までも厳しい状況を何度も乗り越え、素晴らしワインをつくり上げてきたのだ！今年も最後はきちんと今年の美味しさを出してくるとことだろう！ただ､夏はこれからが本番！雷雨と雹を回避し､天候の回復を期待したい！次のレポートもどうぞお楽しみに～！

（2016 年 6 月 16 日訪問レポート）